

第2学年 国語科学習指導案

児童 1組 男子13名 女子9名 計22名
指導者 山本 雅子

- 1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう
教材名 「サンゴの海の生きものたち」(光村図書 2年上)

2 単元の構成

(1) 教材について

本教材は、「サンゴの海の生き物たちが互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読む」ことを目標にし、小学校1・2年生の「読むこと」の内容「イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」をねらいとしている。

文章は、「はじめ(問いかけ)」「中(事例1・事例2)」「おわり(まとめ)」という3つのまとまりで構成されており、典型的な説明的な文章の形式となっている。また、サンゴの美しい海に住む生き物達の共生の方法を順序立てて説明した文章なので、事柄の順序に着目しながら内容の大体を読み取る学習に適した教材である。

(2) 児童について

6月に行った国語の意識アンケートの結果は次の通りである。

- ① 国語の勉強は好きですか。(「どちらかといえば」も含む)……………95%
- ② 説明文の学習は好きですか。(「どちらかといえば」も含む)……………95%
- ③ 説明文の学習で、自力で課題の答えを見つけられますか。……………100%
(「見つけることが多い」も含む)
- ④ 読書は好きですか。(「どちらかといえば」も含む)……………95%
- ⑤ 自分の考えを発表できますか。(「できるほう」も含む)……………100%

アンケートの結果を見ると、国語の勉強や説明的な文章の学習に対して意欲的に取り組んでいる児童が多いことが分かる。また、これまでの説明的な文章の学習において、手がかりを持って読むことを繰り返し行うことで、学習課題に対する答えを見つけられることができる児童が増え、そのことが、本人の自信や文章を読む喜びにもなっていると考えられる。

児童は、6月に学習した説明的な文章教材「たんぼぼのちえ」において、本文と挿し絵から、時間的順序や「ようす」と「わけ」に気をつけて読むことを学んだ。叙述に即して読み取ることについては、重要語句や文末表現に着目して読む練習を繰り返すことで、少しずつ、何に気をつけて読めばよいのかを考えながら読むことができるようになってきた。

しかし、書かれている内容をすぐに思い描くことができる児童ばかりではなく、言葉の意味一つ一つの確認が必要な児童も少なくなく、文章を読み取る力の個人差はまだ大きい。

これらのことから、文章構成、指示語や接続語、主語や述語をしっかりと押さえながら読むことで、形式的な読みの力をつけさせたい。さらに、中心となる生き物たちの関係性に驚きをもって読み進められるよう、内容的な読みの力もつけていきたい。

(3) 指導にあたって

「つかむ段階」では、まず、教材文「サンゴの海の生きものたち」が、説明的な文章の最も基本的な組み立てである「はじめ」「中」「おわり」という文章構成になっていることを把握させる。また、「はじめ」の部分にある重要語句「たがいにやくに立つようにかかわりあって」や、問いかけの文「どんな生きものたちが、どんなにかかわりあいをしているのでしょうか。」を、しっかりと押さえ、内容の読み取りにつなげていくようにする。

「ふかめる段階」では、文章を読み通す手がかりとなっている重要語句や問いかけの文をさらに具体的に、「どの生き物が」「何をしているのか」「それは、相手のどんな役に立っているのか」という3つの視点にし、生き物たちのかかわり合いを読み取っていくようにする。その際、常に文章に立ち返ることや、教科書の写真を手がかりにすることも意識させたい。

「まとめる段階」では、「海の生きものひみつカード」を作ることを活動のめあてとし、児童が自分でも興味をもって調べ読みができるよう、本や図鑑の紹介もしていきたい。

3 単元の見どころ

◎ 海の生き物たちのかかわり合い方について、事柄の順序を考えながら読む。

<国語への関心・意欲・態度>

- ・海の生き物についての本を、興味をもって読もうとする。

<読む能力>

- ・「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読む。〔イ〕
- ・語や文のまとまりや内容、言葉の響きなどについて考えながら声に出して読む。〔エ〕

<書く能力>

- ・生き物についての本を探し、知りたいことを調べて、分かったことを書く。〔イ〕

<言語についての知識・理解・技能>

- ・片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使う。〔イ（ア）〕

4 単元の指導計画と評価規準（全11時間 「読むこと」7時間 「書くこと」4時間）

段階	時	主な活動内容	評価規準<評価方法>		
			国語への 関心・意欲・態度	読む能力 書く能力	言語について 知識・理解・技能
つかむ	1	○全文を通読し、学習の見通しをもつ。 ・全文を読み感想を書く。	写真から想像を広げ、海の生き物について興味をもって読もうとしている。 〈発言・態度〉	全文を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことなどを書いていく。〈発言・ノート〉	片仮名の名前の生き物を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文の中で使っている。〈ノート〉
	2	○音読練習をする。 ・分からない言葉の意味を確認する。 ・音読練習をする。	進んで音読練習している。〈態度〉	語や文のまとまりを考えながら音読している。〈音読〉	漢字や語句について理解している。〈発言〉
	3	○学習計画を立てる。 ・簡単に文章構成をつかむ。 ・「問い」の文を読み取り、学習の計画を立てる。(段落①②)	題名や「問い」の文などから、学習のめあてをもととしている。〈発言・態度〉	文章構成や学習課題を考え、学習の見通しをとらえている。 〈発言・ノート〉	文章構成を理解している。〈発言・ノート〉 「～です。」 「～ます。」 「たがいに」 「やくに立つ」 「かかわり合って」 「どんな～でしょうか。」
ふかめる	4 ・ 5	○イソギンチャクとクマノミのかかわり合いについて読み取る。 ・それぞれの体の特徴を読み取る。(段落③④) ・それぞれのかかわり合いを読み取る。(段落⑤⑥)	イソギンチャクとクマノミの体の特徴やかかわり合いについてとらえ、吹き出しを書こうとしている。〈発言・ワークシート〉	イソギンチャクやクマノミの体の特徴や、かかわり合いについて読み取っている。 〈サイドライン・発言・ワークシート〉	主語と述語に注意して読んでいく。〈発言・ワークシート〉 「～です。」 「～ます。」 「これで、」 「でも、 ～ません。」 「おおわれている。」 「これが」 「ひみつ」 「だから」 「あんぜん」 「この」 「おいはらって」 「こうして、」 「～のです。」

	6 ・ 7 本 時	○ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて読み取る。 ・ホンソメワケベラの体の特徴を読み取る。(段落⑦) ・それぞれのかかわり合いを読み取る。(段落⑧⑨)	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いをとらえ、吹き出しを書こうとしている。(発言・ワークシート)	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて読み取っている。(サイドライン・発言・ワークシート)	「～ます。」 「～です。」 「その一つ」 「～ほど」 「この」 「でも、 ～ません。」 「～のです。」
ま と め る ・ ひ ろ め る	8	○海の生き物についての本を読む。(段落⑩)	進んで本を探して読んでいる。(態度)	調べたい部分を探し出している。(観察)	片仮名の名前の生き物を読んだり書いたりしている。(カード) 「このように」 「さまざまに」
	9 ・ 10	○「生きものカード」を書く。 ・生き物の名前や特徴などを文と絵でまとめる。	知らせたいこと・不思議なことを生き物カードに書こうとしている。(態度・カード)	【書く】 集めた材料をもとに、分かったことをカードに書いている。(カード)	
	11	○「生きものカード」を読み合う。	楽しくカードを読み、感想をもっている。(態度・発言)	カードを読んだ感想をもち、交流している。(発言)	

5 本時の指導 (7 / 11 時間)

(1) 目標

ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合い方について、事柄の順序を考えながら読み取る。

(2) 指導にあたって

仮説1 〈板書構成の工夫〉に関わって

課題、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合い、まとめという1時間の学習の流れが見通せるように、あらかじめ黒板に提示する。重要語句や接続語、文末表現なども、読みの手がかりとして、色チョークなどで強調しながら板書に位置づける。特に、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを、対比させて簡潔に板書することにより、両者の関係を視覚的にも理解させたい。

仮説2 〈学び合い〉に関わって

「一人学び」でそれぞれが見つけた、ホンソメワケベラと大きな魚の「したこと」「役に立っていること」を全体で確認することにより、自分の読み取りの正しさを確かめたり、または修正したりしながら、両者の関係を正しく読み取るための「学び合い」の場としたい。その際、ペープサートなども使用し、内容理解を確実なものとしたい。

仮説3 〈一人一人の評価の積み重ね〉に関わって

課題に対する答えを見つけることができたか、「学び合い」による気づきがあったかなど、マークによる振り返りと感想発表を行うことで、達成感を味わわせ、次時への意欲付けを図るとともに、友達の考えの良さを認める力もつけさせたい。その積み重ねが、ひいては、国語の学習に対する喜びや自信につながっていくと考える。

(3) 展開

段階	学習内容と学習活動 (○発問・児童の反応)	一人	複数	全体	・留意点 評価 (評価方法)
つかむ	<p>1 前時の学習を想起する。 ○「サンゴの海の生きものたち」の問いかけの文は、何でしたか。 ・どんな生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。 ○イソギンチャクとクマノミはどんな関わり合いをしていましたか。 ・たがいに守りあうかかわり合い。</p>				・「はじめ」の問いかけの文を受けての、本時が「中」の 2 番目の事例であることを確認し、学習課題につなげる。
3分	<p>2 学習課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなかかわり合いをしているのだろう。</p> </div>				
ふかめる	<p>3 課題解決の見通しをもつ。 ○かかわり合いをまとめるときに調べるのは、どんなことですか。 ・「していること」 ・「やくに立っていること」</p> <p>4 学習範囲を音読する。</p> <p>5 課題解決をする。 ○ホンソメワケベラがしていることに直線、役に立っていることに波線を引きましょう。</p> <p>○ホンソメワケベラがしていることと役に立っていることを発表しましょう。 <していること> ・大きな魚の中に入っていく。 ・そうじしている。</p> <p><役に立っていること> ・大きな魚たちの、体や口の中についた虫をとって、きれいにそうじしている。</p> <p>○大きな魚がしていること、役に立っていることは何でしょう。 <していること> ・口をあけている。 ・ホンソメワケベラを食べない。</p> <p><役に立っていること> ・ホンソメワケベラに食べ物をあげている。</p> <p>○ホンソメワケベラと大きな魚の吹き出しに、相手への一言を書きましょう。 <ホンソメワケベラ> ・いつも食べものをくれてありがとう。 ・また、そうじしてあげるよ。 <大きな魚></p>	一人学び		学び合い	<p>・確認のため、黒板に提示する。また、本文にはない、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを一文でまとめることを知らせる。</p> <p>・主語や述語に気をつけて読んでいくことを押さえ直す。</p> <p>・内容を正しく理解するために、指示語や接続語、また、省略されている主語、二重になった文の主述などを確認する。</p> <p>・大きな魚の「していること」は、ホンソメワケベラを食べずに口をあけ掃除してもらっている写真などから明らかにする。 ・双方向の利益に目を向けさせるために、ペープサートも用いる。</p> <p>・それぞれの生き物の、「していること」「やくに立っていること」をもう一度確認する。</p>
37分	・いつもそうじしてくれてありがとう。 ・また、虫をとらせてあげるよ。				

	<p>6 課題についてまとめる。 ○ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについてまとめる文を書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>こうして、ホンソメワケベラと大きな魚は、たがいにやくに立っているのです。</p> </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A評価＝本時での学習内容をもとに、自分の言葉でまとめている。 Cへの支援＝板書のキーワードを確認し、前時(「事例1)」のまとめの文を参考にしてまとめられることを示唆する。</p> </div> <p>(ノート)</p>
<p>まとめる 5分</p>	<p>7 学習の振り返りをする。</p> <p>8 次時の学習を確認する。</p>			<p>・4つの観点についてマークで振り返りをすることを指示する。</p>

《自己評価の観点》

- ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いがわかったか。
- 自分の考えを発表できたか。
- 友達の考えのいいところを見つけられたか。
- 今日の学習は楽しかったか。

(4) 主な発問と板書計画

2年 「サンゴの海の生きものたち」(7/11 時間目) 指導者 山本 雅子

本時の指導

(1) 目標

ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合い方について、事柄の順序を考えながら読み取る。

(2) 指導にあたって

仮説1〈板書構成の工夫〉に関わって

課題, ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合い, まとめという1時間の学習の流れが見通せるように, あらかじめ黒板に提示する。重要語句や接続語, 文末表現なども, 読みの手がかりとして板書に位置づける。特に, ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを, 対比させて簡潔に板書することにより, 両者の関係を視覚的にも理解させたい。

仮説2〈学び合い〉に関わって

「一人学び」でそれぞれが見つけた, ホンソメワケベラと大きな魚の「したこと」「役に立っていること」を確認することにより, 自分の読みの確かさを確かめたり, または修正したりしながら, 両者の関係を正しく読み取るための「学び合い」の場としたい。その際, ペープサートも使用し, 内容理解を確実にしたい。

仮説3〈一人一人の評価の積み重ね〉に関わって

課題に対する答えを見つけることができたか, 「学び合い」による気づきがあったかなど, マークによる振り返りと感想発表を行うことで, 達成感を味わわせ, 次時への意欲付けを図るとともに, 友達の考えの良さを認める力もつけさせたい。その積み重ねが, ひいては, 国語の学習に対する喜びや自信につながっていくと考える。

主発問等

△つかむ▽

○「サンゴの海の生きものたち」の問いかけの文は何でしたか。

○インゲンチャクとクマノミは, どんなかわり合いをしていましたか。

△ふかめる▽

○かかわり合いをまとめるときに調べるのは, どんなことですか。

○ホンソメワケベラがしていることに直線, 役に立っていることに波線を引きましょう。

○ホンソメワケベラがしていることに役に立っていることを発表しましょう。

○大きな魚がしていることに, 役に立っていることは何でしょう。

○吹き出しに, 相手への一言をかきましよう。

○ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについてまとめる文を書きましよう。

△まとめる▽

○今日の学習の感想を発表しましょう。

(板書計画)

サンゴの海の生きものたち

もとかわ たつお

かだい (8)(9)

ホンソメワケベラと大きな魚は, どのようにしてかかわり合っているのだろう。

○していること

○あい手のやくに立っていること

ホンソメワケベラ

大きな魚

・そうじする。

・体や口の中についた虫をとってもらおう。

あげている。

・とつた虫が食べものになる。

・きれいになる。

まとめ

「このようにして, ホンソメワケベラと大きな魚は, たがいによくに立っているのです。」